

戦後75年を迎えて

世代を超えて引き継ごう 平和への願い



市役所前に立つ「平和と繁栄の像」

昭和20年8月15日の終戦から75年がたちます。戦争を体験していない人が大半を占めるようになった現在、平和の尊さをいま一度考えることが必要ではないでしょうか。

平和都市宣言のまち

日本国民は、8月15日を「終戦の日」とし、戦争の悲劇を忘れることなく、これを二度と繰り返すまいと固く誓いました。

わが国は世界で唯一の核被爆国です。昭和20年8月に広島・長崎へ投下された原子爆弾(原爆)は、一瞬にして多くの人の命を奪い去りました。終戦から75年がたった今も、放射能の後遺症に苦しんでいる人々がいます。しかし、核兵器の保有を続ける国があるだけで

なく、新たに保有しようとする国が出現するなど、依然として核兵器の大きな脅威が存在します。

市は、非核三原則(日本は核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず)が完全実施されることを願い、核兵器の廃絶と恒久平和確立のため原爆投下から50年目という節目の年に当たる平成7年2月21日に「非核平和都市宣言」をしました。また、昭和33年10月31日には、自ら永遠の平和都市となることを決意し「世界連邦平和都市宣言」をしています。

戦争体験を伝える活動

原爆写真ポスター展

平和の尊さと核兵器の廃絶をテーマに、原爆投下直後の惨状を記録した写真ポスターを展示します。

会場と日時

○市役所1階ロビー：8月11日(火)まで 午前8時30分～午後5時15分
○もりんびあこつづ：8月26日(水)～9月10日(木) 午前9時～午後9時

戦後75周年事業 戦争の悲惨さを伝える「原爆の図」展

画家の丸木位里・俊夫婦の作品を展示し、原爆の被害の実態と平和の尊さ、核の廃絶を訴えます。

「原爆の図」は15部で構成され、皮膚が溶けた人の群れが爆心地をさまよう「幽霊」から始まり、同じ悲劇が繰り返された「長崎」で終わります。

今回は、第1部の「幽霊」から5部「少年少女」までの複製画の展示となります。
日時 8月15日(土)まで(3日)・

11日(火)を除く 午前9時～午後5時

会場 2 スカイタウンギャラリー

※学芸員によるトークショー

日時 8月9日(日) 午後2時から

会場 2 スカイタウンホール

講師 岡村幸宣さん(原爆の図丸木美術館学芸員)

定員 80人(先着順)

※参加費 無料

※トークショーへの参加を希望する人は当日直接会場へ。くわしくは文化国際課 ☎20・1534へ。



丸木位里・俊 原爆の図(一部)

世界連邦平和都市宣言

(昭和33年10月31日宣言)

成田市は、宗教観光都市として、世界連邦建設の趣旨に賛同し、自ら永遠の平和都市となることを決意し、全世界の恒久平和確立と人類の福祉増進に努力せんとするものである。

右宣言する。

非核平和都市宣言

(平成7年2月21日宣言)

世界の恒久平和は、全世界の人々の共通の願いである。

我が国は世界で唯一の核被爆国として、広島・長崎に原爆が投下されて本年度で50年目を迎える。

我々は、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再びこの地球上にあの惨禍を繰り返すことのないよう強く望むものである。

このため、平和を希求する我々成田市民は、我が国の国是である非核三原則が完全実施されることを願い、全世界の人々と共に、核兵器の廃絶、恒久平和確立のためここに「非核平和都市」を宣言する。